

オタワの新名所

カナダ 文明博物館

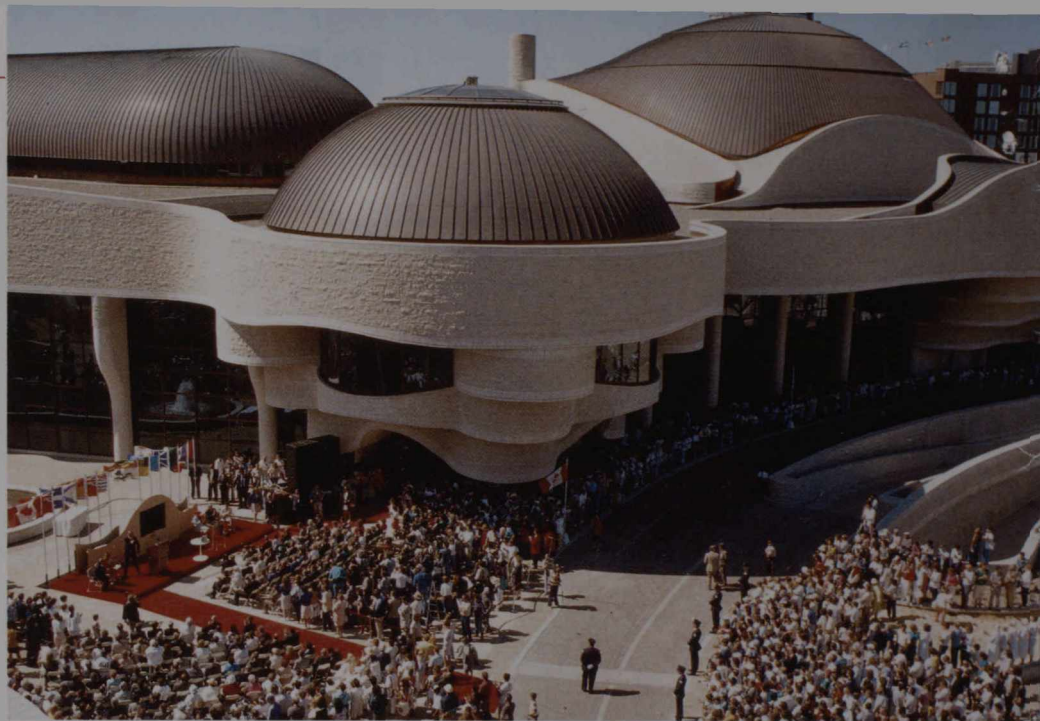
カナダの歴史と文化を一堂に

オタワ・ハル首都圏に、新しい名所が誕生した。オタワからハルへ行くアレクサンドリア橋を渡ったところに建つカナダ文明博物館 (Canadian Museum of Civilization) が、それである。

まるで、巨大な石造彫刻のようにきれいな曲線を描くこの文明博物館からは、オタワ川の彼岸の丘の上にそびえる連邦議事堂が目の前に眺望できる。

カルガリー出身のダグラス・J・カーティナルが設計した文明博物館は、かつてオタワ市内にあった国立人類博物館を移転・改築したもので、展示棟の氷河館 (展示面積16,500平米) と保管・管理棟のカナダ楕円地館からなる。

展示棟には、常設の大ホール、歴史ホー



Harry Foster

ル、児童ホールおよび大画面映画館「シネプラス」のほか、「インディアン・イヌイット美術館」や「芸術・伝統ホール」などのある短期展示用の広いスペースが設けられている。

大ホールは、博物館の中心ともいえるところで、先住民の舟をかたどって楕円状に広がり、巨大なガラス壁を通して連邦議事堂が見える。

大ホールを抜けて上階へ進むと、ドーム形の屋根の下に、実物大のセットによってカナダ史が展開する。ノースメン (バイキング) の到来、フランス植民地時代の生活、開拓以前の西部、19世紀後半のカナダの造船所や中心街などが、当時そのままに再現され、タイムトンネルを通過する気分

だ。児童ホールは、子供たちが遊びながら学べるところで、ホール内につくられた8つの国の入国管理をすませ、通貨を交換しながら訪れる「世界観光バス旅行」、世界中のおもちゃやゲーム、衣装などを通じて他の文化と接触する「探険の広場」、「工作の広場」などが楽しめる。

シネプラスは、普通の10倍の大きさのスクリーンを使うアイマックス映画と、巨大なドーム形スクリーンを使うオムニマックス映画が交互に利用できるようにした世界初の映画館で、人間の体の不思議な動きを見せる「限界への挑戦」などの作品を上映している。

(住所は100 Laurier St., Hull, Quebec J8X 4H2)

花博を彩る

アイマックスの新映像システム

巨大なスクリーンと立体音響で知られるアイマックス社 (本社トロント) のさらに新しい未来映像が、9月末まで大阪で開かれている「国際花と緑の博覧会」で話題を呼んでいる。

世界初公開の画期的なドームスクリーンを使った立体フルカラー映像システム「IMAX SOLIDO™」、正面と床下に設けた巨大スクリーンによる映像システム「IMAX MAGIC CARPET®」、そして1986年のバンクーバー万博で初公開された立体映像技術を高度に改良した新しい「IMAX® 3D」映像システムがそれである。

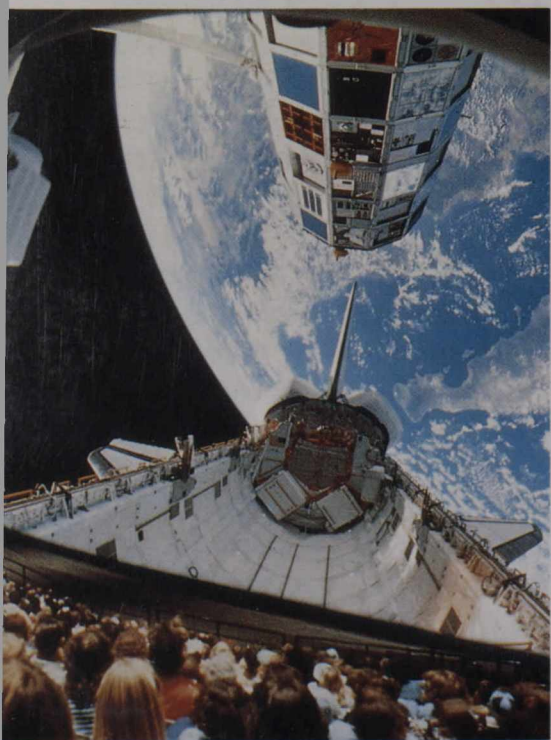
「IMAX SOLID™」(富士通パビリオン) は、コンピューター・グラフィックと実写による高精細なフルカラー立体映像「ユニ

バース 2 - 太陽の響」が、圧倒的な臨場感で迫る。

「IMAX MAGIC CARPET®」(三和みどり館) は、正面と床にセットされた2面の巨大なスクリーンに「フシギな不思議な蝶の旅」を上映する。

サントリー館では、高度に改良されたIMAX立体カラー映像と立体音響でカナダ西部の大自然と野性動物を映しだす。またハートピア：空と筏のパビリオンでは、アマゾン流域の熱帯雨林やそこに生息する動植物が、巨大なスクリーンに特殊なアングルから映写される。

(アイマックス・システムズ (ジャパン) 株式会社 〒102 東京都千代田区一番町22-1 一番町セントラルビル102B TEL.03-234-8061)



アイマックス映画「The Dream Is Alive」の上映場面 (写真提供=アイマックス・システムズ・ジャパン)。